

もつとネット



15号

2017 年 3 月発行

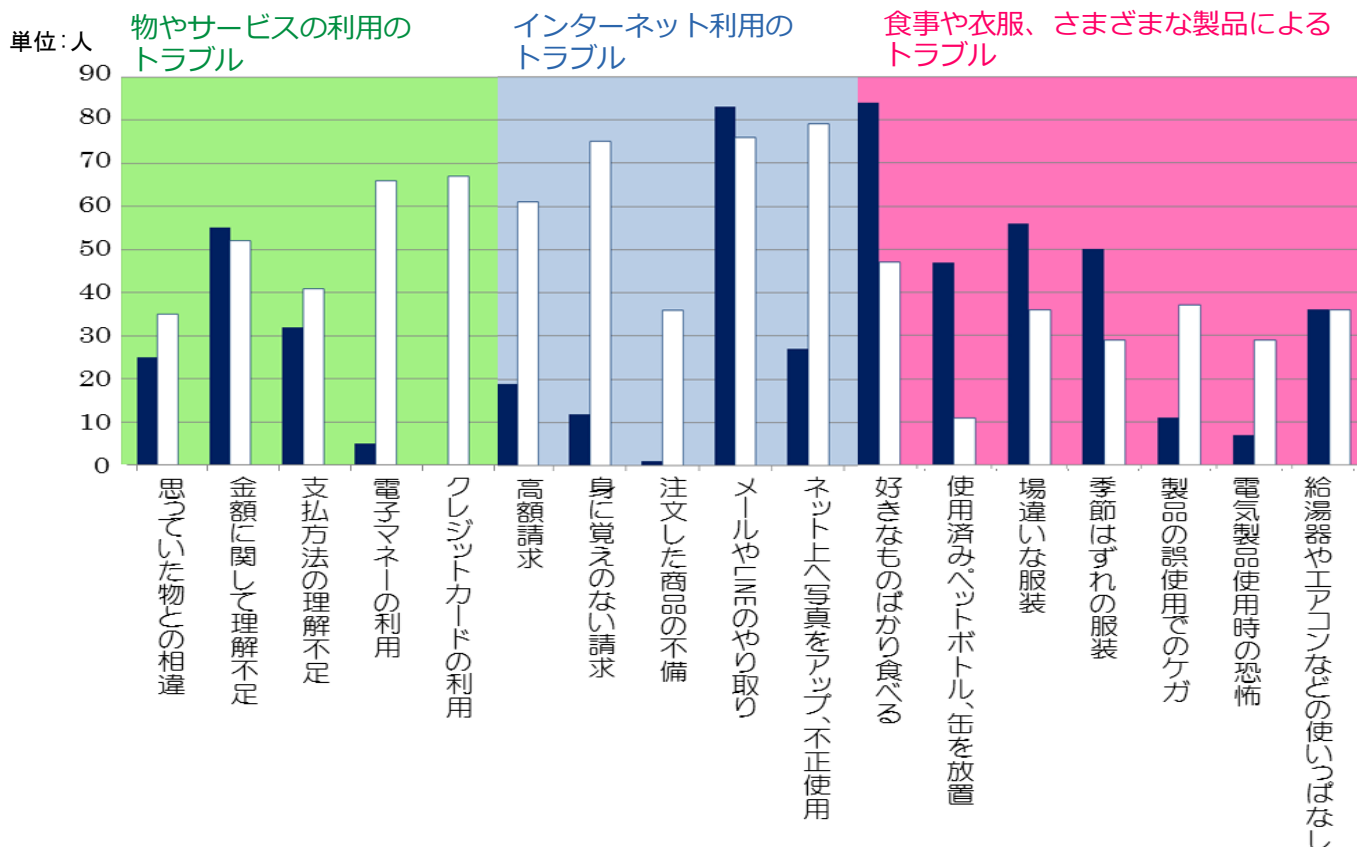
特集

特別支援学校生の消費生活の実態調査

生徒の保護者と教諭にアンケート調査をしました

Q1 消費生活において過去・現在トラブルになったことがある（棒グラフ青） Q2 今後心配なことがある（棒グラフ白）の比較グラフ

（複数回答）



調査は兵庫県下の特別支援学校高等部 41 校に行いました。配布：560 部 回収：261 部

・過去・現在のトラブルとして最も多いのは「メールや LINE のやり取りで、友だちともめたことがある」「好きなものばかり食べて、栄養が片寄っている」で、約 4 割の人が選択しています。

また、衣服に関する内容を選んだ人が 1/4 いたことは意外に多いと思いました。

・今後心配なトラブルでは、「電子マネーやクレジットカードの利用」に関するものが著しく増加していることから、卒業後自立した生活を送り、保護者や教師の保護監督が行き届かなくなった場面で起こるトラブルとして懸念されています。

行政とNPOとの連携・協働による特別支援学校での消費者教育の取組

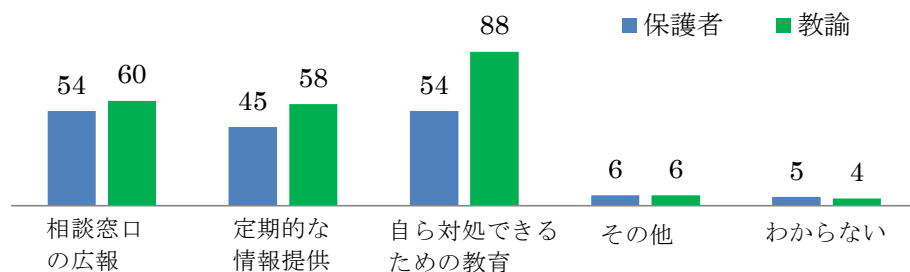
消費者教育アドバイザー 岩浅 敬由

C・キッズ・ネットワークと本格的に協働事業に取り組み始めたのは、2012年、私が兵庫県東播磨消費生活センター在任中に、消費者行政活性化基金を活用した補助事業にC・キッズ・ネットワークが「障害者のための金銭教育プログラムの作成」で応募されたことから始まりました。この事業は採択され、翌年2月頃にはプログラムが完成しました。早速、管内の特別支援学校にモデル講座の開催の協力を呼びかけ、加西市立加西特別支援学校において金銭教育プログラム「楽しいやりくり」を実施しました。このプログラムはイラストや模擬紙幣を使用して、毎月の収入の中から、「急な出費」と「夢の実現」に備えるため、計画的に貯金しましょうとワークショップ形式で学ぶものです。この出前講座が好評だったことから、次年度（2013年度）には東播磨消費生活センター管内特別支援学校4校で延べ10回の出前講座を実施しました。また、プログラムも金銭教育に加えて、「契約・ネットトラブル」、「食育」と広げました。さらに2015年度は、管内にとどまらず、兵庫県内全域で特別支援学校での出前講座を開催しました。実施校、開催回数は格段に増加し14校、延べ23回の開催となりました。これらの取り組みに加えて特別支援学校における消費者教育の一層の充実を図るため、出前講座の開催と並行して、地方消費者行政推進交付金を活用した先駆的プログラムとして採択された「特別支援学校における消費者教育の推進事業」の中で、①障害者の消費者被害の実態調査、②県内特別支援学校における消費者教育の実施状況の調査・分析、③消費者教育のニーズのヒアリング調査、④消費者教育プログラム・教材の作成（6プログラム）、⑤新プログラムによるモデル講座の開催などに取り組みしました。これらの事業の実施により、特別支援学校での消費者教育の実施状況やニーズを基本とした効果的かつ幅広いテーマのプログラム・教材が作成できたと考えています。

このように兵庫県における特別支援学校での消費者教育は、行政とNPOとの連携・協働により充実してきたと言えますが、私が何より感じるのは、C・キッズ・ネットワークのBREAKTHROUGH（突破）する力です、どんな難題でも解決してしまう行動力には敬服しています。これからも、C・キッズ・ネットワークの活躍に期待しています。



Q 9 消費者トラブル防止にはどのようなことが必要か
(複数回答)



Q 9 のグラフは
表紙のQ 1、Q 2の質問に
対して、その防止策を保護
者と教諭に聞いた内容

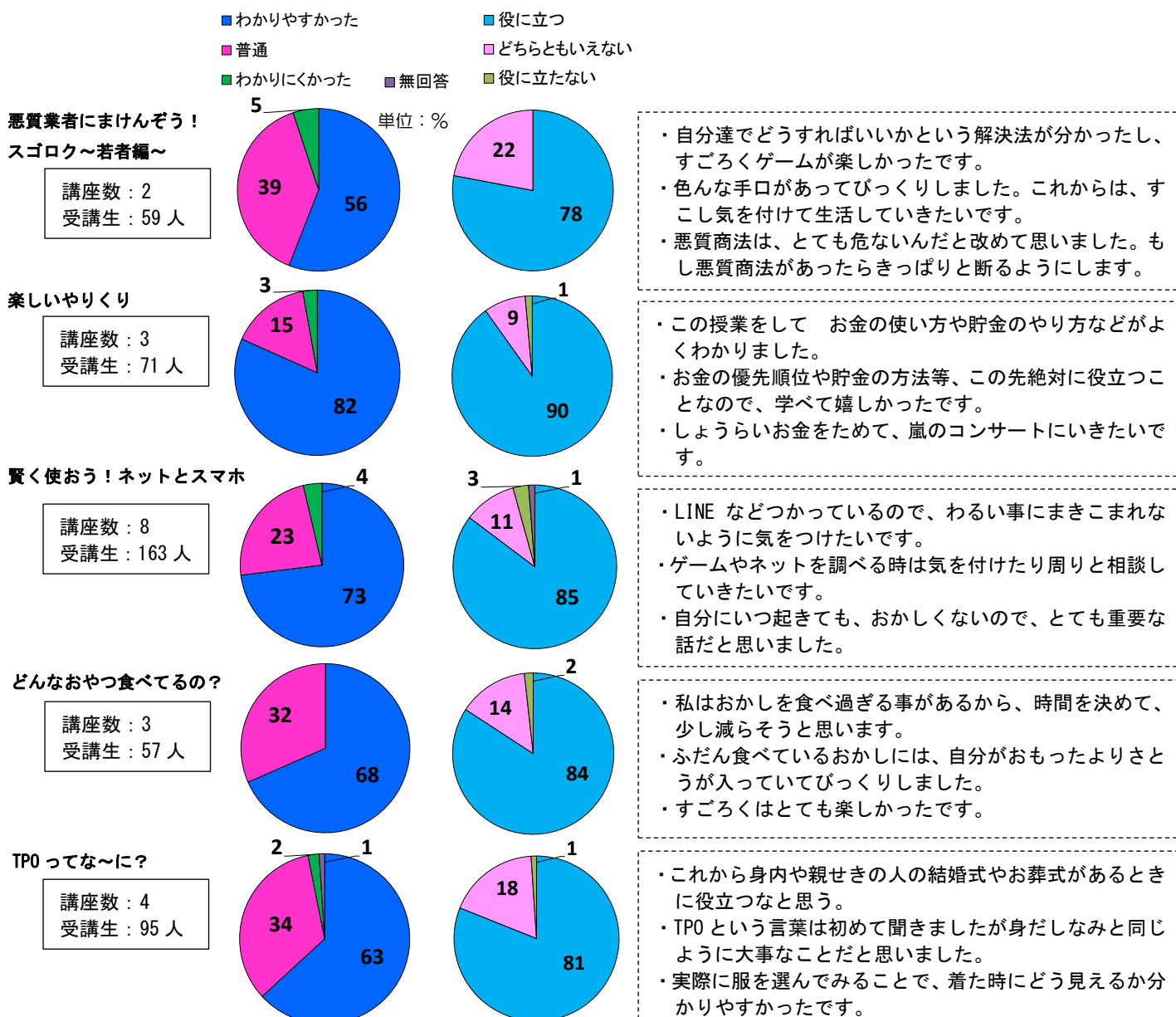
・「その他」での記述は
家庭と学校双方に対して教
育や日常生活における見守
りが必要であることに触れ
られている

特別支援学校向けプログラム

表紙掲載の「特別支援学校生の消費生活の実態調査」の分析・考察をふまえて、新規開発や既存プログラムのアレンジを行い、特別支援学校向けに下表の6つのプログラムを完成しました。これらのプログラムは、トラブルを解決する方法を示すとともに、基本的に生徒が諸問題に自ら対処、判断できるよう自立することを目指した内容です。

テーマ	ねらい		対象	プログラム名
	トラブル防止	生活の管理		
契約	○		悪質商法	悪質業者にまけんぞう！スゴロク～若者編～
金銭		○	家計	楽しいやりくり
情報	○		ネット、スマホ	賢く使おう！ネットとスマホ
食		○	栄養バランス	どんなおやつ食べてるの？
環境		○	リサイクル、整理整頓	リサイクルdeシンプルライフ
衣服		○	TPO	TPOってな～に？

2016 年度 1 月までの特別支援学校で実施した講座の評価・感想を紹介します。



～月例会の5分間の情報提供から～

「ユーチューバー」

最近では、小学生の人気職業ランキングにも登場する「ユーチューバー」。CMでは「好きなことで生きていく」というキャッチフレーズでユーチューバーが登場し、有名なユーチューバーは年間1億円以上稼いでいるとなれば、子どもたちが憧れるのも無理がないかもしれない。どんな人たちだろうか？

ユーチューバーとは、自作の動画を投稿して収入を得る人たちのことである。自分のアップした動画に広告を入れ、それによって収入を得ることができる。広告料レートは公開されていないが、動画が1回再生されるごとに約0.1円の収入があるといわれている。(最近では0.025円程度まで下がったという話もある)

日本の人気ユーチューバーの動画を実際見てみると、商品を紹介したり、ゲームを中継したり、「○○をやってみた」などと面白いことをやってみせたりしていた。おもちゃやお菓子を紹介する子どもの人気ユーチューバーもいる。「自分たちにもできそう」な感じが、子どもたちを惹きつけるのかもしれない。動画をみて、「自分もやりたい」と思い、実際に動画を撮ってアップする子どもも多いようだ。面白いこと、過激なことをやればうけると考えた子どもたちが、いじめなどの動画をアップしたり、自分の個人情報や批判的な問題コメントをして炎上したりなどいろいろなトラブルも起こっている。動画のアップは子どもでも簡単にできるので注意が必要だ。 会員 Y・Y

新講座紹介

「終活・相続対策のアレコレ」

講座のねらいと受講者に伝えたいこと

- (1) 終活・相続に関する基礎知識を学び実施すべきことを整理し、自分の終活・相続対策に役立てる。
- (2) 終活は、遺族のためだけでなく、自分のためでもある。今後の人生を安心して楽しく過ごすこと。
- (3) 関係者と良好な関係を築き、絆を強めることにより、資産を「争族」なく円満に承継できる。

終活とは

平成21年に週刊朝日が造った言葉。当初は葬儀や墓など終焉に向けての事前準備対策が主でしたが、現在では「人生のエンディングを考えることで“自分”を見つめ“今”をよりよく、自分らしく生きる活動」のことを言うようです。



受講者の感想

- ・終活を考えるチャンスになった
- ・エンディングノートの作成は、早速実行したい
- ・分かり易い説明で、資料も参考になった
- ・残された者が困らない様に準備しようと思った
- ・スリムな人生を目指したい
- ・子どもと話し合うことも大切かと思いました

～編集後記～

健常者も要支援者も安全に自立するためには、“生活力”が重要です。C・キッズ・ネットワークの活動を知ってもらい是非受講し、更に“生活力”アップに繋げてもらいたいと思いました。

2017年3月 広報委員一同